

第8回アジア湿地シンポジウム



「湿地と若者 (Wetland and Youth) セッション」を運営しました。

ユースが全国各地で湿地を取材、魅力を発信！ Youth Research Project

2017年11月7日～11日、佐賀県佐賀市で環境省、ラムサールセンター、日本国際湿地保全連合、日本湿地学会の主催により、8th Asia wetlands Symposium (AWS：第8回アジア湿地シンポジウム) が開催されました。AWSは第1回目が1992年に滋賀県大津市と北海道釧路市で行われ、その後はマレーシア (2001、2011年)、インド (2005年)、ベトナム (2008年)、中国 (2011年)、カンボジア (2014年) で開催されました。シンポジウムでは、湿地関わるNGO、研究者、行政、市民などが一堂に会し、アジアの湿地における問題点や今後保全に向けた話し合いが行われました。2005年にウガンダで行われた第9回ラムサール条約締約国会議において決議された、CEPAを履行する有効な手段として地域湿地シンポジウムの重要性 (決議IX. 19) に沿って実施されています。

今回は、世界各地の27の国と地域から469人が参加し、最終日には“Saga Statement”が決議されました。議論はセッションに分かれて実施され、有明海に関する発表が行われた「有明海セッション」のほか、「湿地と防災・減災／気候変動」、「湿地と持続可能な観光」など9



のセッションにわかれ様々な報告が行われました。

9日にはエクスカージョンが行われ、有明海に面するラムサール条約登録湿地の東よか干潟 (佐賀市)、肥前鹿島干潟 (鹿島市)、荒尾干潟 (荒尾市) のコースが用意されました。どのコースも、干潟だけでなく、景色・歴史・食などで参加者は各地の魅力を感じていました。

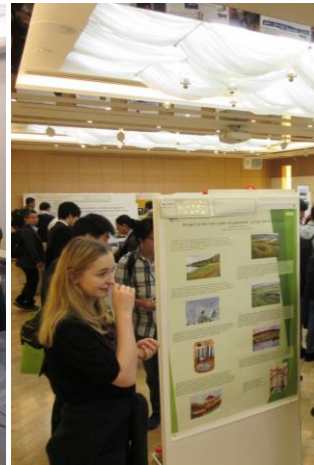
湿地と若者 (Wetland and Youth) セッション

11 月8日に「湿地と若者」セッションが行われ、YRJはこのセッションの運営を行いました。

「湿地と若者」セッションには7カ国から21人が参加し、13人が口頭発表、6人からポスター発表が行われました。発表はそれぞれが日頃湿地において行っている活動について発表が行われ、観衆が会場に入りきれないほどの盛り上がりを見せたほか、参加者同士連絡先などを交換しアジア規模のネットワークを作ることができました。AWSで行われたセッションのうち、円卓になって討論を行なった唯一のセッションです。ディスカッションでは「湿地を盛り上げるためには、音楽や遊びなど若者らしさを取り入れることが必要だ」などの意見が出されました。

“Saga Statement”においても、若者の重要性が確認され、今後のAWSにおいても活動を支えていくことが明記されました。このステートメントは、2018年10月21日からアラブ首長国連邦のドバイで開催される第13回ラムサール条約締約国会議に世界に向けアピールされる予定です。

アジア湿地シンポジウム（湿地と若者セッション）での様子



左上) 日頃の活動について発表を行いました。右上) YRJ代表(右)が議長を務めました。左下) 円卓になりディスカッションを行いました。右下) ポスター発表のようす。

参加者感想

桜美林大学

石井花梨さん

AWSの参加者としてまたYRJのスタッフとして参加できて本当に良かったというのが1番の感想です。参加者としてアジアの様々な地域の人たちのプレゼンテーションを聞き、将来こんな風に自然環境を守る一員になりたいと強く感じた。また、一員になるために今の自分は何が出来て、今後は何をすべきなのかを改めて考えさせられた。YRJのスタッフとして参加する事で自然環境を守る同じ“ユース”と交流し、ネットワークを作れたことは自分にとって大きな一歩でした。

ユースリサーチプロジェクト —アジア湿地シンポジウム—

実施：2017年11月7日（発行2018年12月6日） 取材：発行：ユースラムサルジャパン

TEL/FAX 052-446-8489

E-mail youth.ramsar.japan2015@gmail.com

URL <http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/>

Facebook www.facebook.com/youthramsarjapan



本報告は「地球環境基金」の助成により作成しました。